

平成 29 年 4 月 9 日

公認心理師カリキュラム等検討会座長 北村 聖 様
公認心理師制度推進室 御中

子安 増生
(一般社団法人日本心理学諸学会連合 理事長)

公認心理師カリキュラム等についての要望

4月13日に開催される第3回検討会の資審議料を拝見致しました。

ワーキングチームの8回にもわたるご審議と、「素案」のとりまとめへのご尽力に対して、心より敬意を表しますとともに、その基本方針を尊重しつつ、一層望ましいものになるよう、検討会で審議を進めていきたいと存じております。

さて、私が理事長をつとめております一般社団法人日本心理学諸学会連合は、心理学関連の53団体が加盟する組織であり、心理学界全体の発展を願う団体であります。この「素案」が心理学界全体の発展に貢献しつつ、有為な人材の養成に結びつくことを願って、以下の3点の要望（イタリック体部分）を提出いたします。

【要望事項1】

「④心理学研究法（統計法を含む。）」は「④心理学研究法」と「⑤心理学統計法」の2科目に分けることを要望する。

「公認心理師のカリキュラム等に関する基本的な考え方」を踏まえたカリキュラムの到達目標（素案）には、下記のこと示されている。

5. 心理学における研究

5-1. 心理学における実証的研究法について概説できる。

5-2. 心理学で用いられる統計手法について概説できる。

5-3. 統計に関する基礎的な内容について理解し、データを用いて実証的に考えることができる。

これに対応する8ページの「大学及び大学院における必要な科目（素案）」では、「④心理学研究法（統計法を含む。）」として、一括されている。「心理学研究法」は、観察、実験、質問紙調査、心理検査、面接など、データを取得する方法を扱うのに対し、「心理学統計法」では、データを分析し表現する方法について扱うものであり、まったく別の事柄であるから、両者は科目を分けることが望ましい。

【要望事項2】

3ページの「公認心理師のカリキュラム等に関する基本的な考え方」を踏まえたカリキュラムの到達目標（素案）および、10ページ「○大学における必要な科目に含まれる事項」において、次のように記載されている。

13. 障害者（児）及び高齢者の心理学

13-1. 身体障害、知的障害及び精神障害について概説できる。

13-2. 障害者（児）の心理社会的課題及び必要な支援について説明できる。

13-3. 高齢者の心理社会的課題及び必要な支援について説明できる。

高齢者を「障害者」のカテゴリーの中に位置づけるのはまったく適切とは思われない。「高齢者の心理社会的課題及び必要な支援」については、「⑪「発達心理学」に含まれる事項」の第5項、または、「⑫「福祉心理学」に含まれる事項」の第3項のいずれかに位置づけるのが適当であり、そのように要望する。

【要望事項3】

別紙3 受験資格の特例について②（法附則第2条第1項第3号及び同項第4号の省令で定める大学における科目）

（中略）

※①及び②は、公認心理師特有の科目と考えられ、法施行日において、相当する科目を開講している大学は少ないと想定されるため、修める必要のある科目としない。

「①公認心理師の職責」と「②関係行政論」に加えて、医学系科目の「⑩人体の構造と機能及び疾病」および「⑪精神疾患とその治療」も開講している大学は少ないと想定されるので、⑩と⑪も「修める必要のある科目としない」ことを要望する。

（以上）